

残された課題(引き続き議論が必要なもの) ~ 事務局による整理

項目	シナリオの概要 (A)	名古屋の現状 (B)	新たに必要となる取組 (A-B)	残された課題 引き続き議論が必要なもの
基本的な考え方	ごみ・資源の総量を減らす(発生抑制) 全ての“しみん”の参画と協働	分別徹底によるごみ減量・リサイクル 行政による施策展開が中心	発生抑制の推進 しみんの協働	
発生抑制	事業者による推進	環境に配慮した製品づくり、適量販売、修理サービス等を積極的に展開	有志の事業者による活動	⇒ 発生抑制策の詳細検討 ⇒ 事業者を交えた検討
	消費者による推進	生活様式や価値観の見直し(脱・使い捨て、グリーン購入など)	有志の市民、団体等による活動	
	レジ袋の削減	発生抑制を推進(協定等で使用自粛) 事業者が回収し、容器包装リサイクル法に基づくリサイクル	レジ袋削減運動(エコクーびょん) 行政が回収し、容器包装リサイクル法に基づくリサイクル	
	飲料容器のリターナブル化	繰り返し使用できる容器(リターナブル容器)に統一 事業者が回収・リユースを実施(デポジット制度導入)	びん、缶、ペットボトルなどのワンウェイ容器が中心 イベント等でリユースカップ使用	⇒ リターナブル容器統一にむけた詳細な議論
ごみ減量・リサイクル	生ごみ	発生抑制を推進 自家(社)処理、地域単位で堆肥化、堆肥化業者活用、市が分別回収などからリサイクルを推進	燃えるごみとして焼却処理 一部地域でリサイクル事業を実施	⇒ リサイクル手法、費用負担のあり方の詳細検討
	プラスチック製品	発生抑制を推進 事業者が回収・リサイクルを実施	不燃ごみ	⇒ 容器包装も含めたプラスチックの扱いについての議論
	既存の資源区分	より一層の減量とリサイクルを推進	減量とリサイクルを推進	
焼却・埋立のあり方	発生抑制と分別徹底で焼却量減量 焼却後は灰溶融で最少化	分別徹底で可燃ごみを減量 焼却後は一部を灰溶融	焼却量・埋立量を大幅削減	⇒ 焼却量・埋立量削減のための詳細の議論

項目	シナリオの概要 (A)	名古屋の現状 (B)	新たに必要となる取組 (A-B)	残された課題 引き続き議論が必要なもの
費用負担のあり方	家庭ごみは有料化 資源は商品の購入時に支払	ごみ、資源ともに無料(事業系ごみのみ有料)	排出者による負担	
教育・人材育成・協働	生活様式や価値観の見直し 自主的に取組む人材の育成 行動につながる体験的教育の実践 市民・事業者・行政等の協力体制で地域での取組を推進	行政による意識啓発やPRの取組み なごや環境大学での協働の取組み	生活様式、価値観などを見直し(発生抑制重視) 具体的な行動につながる体制作り	
役割分担	ごみの適正処理は行政、リサイクルは事業者・市民等が基本	行政中心の施策展開(排出者は理解と協力)	市民・事業者等の自主的な取組と、行政施策展開の組合せ	